

チリ大使館商務部 (PROCHILE TOKYO)

チャンスの国チリ

南米大陸の南西端に位置するチリは、ユニークで多様な自然に富む国です。この南北に細長い国は、その温厚で優秀な人材に加えて民主的な制度という面でも注目されています。

高い教育水準、安定したマクロ経済の土台、海外投資家への法的保証、南米域内で際立って良好な国際的イメージといった点が、チリへの信用を生む主要な要素となっています。

経済協力開発機構（OECD）、世界銀行といった国際機関や、著名なシンクタンクであるEIU（エコノミスト・インテリジェンス・ユニット）によると、チリは南米で最も安全で安定した国とされています。ビジネスをするのに適した自由貿易を促進する開かれた国として、他の国や経済共同体との提携に積極的に取り組む姿勢が評価されています。

チリが自由貿易協定や経済協定を締結する国・地域の市場人口は40億人を超えています。このようなアクセスの優位性により、チリは貿易でアメリカ大陸と世界を結ぶ架け橋となっています。

政府は海外直接投資の主要なエンジン

産業開発公社（CORFO）、チリ外務省輸出振興局（ProChile）、海外投資委員会（FIC）といった政府機関は、投資先としてのチリの魅力やメリット、条件を提示するプロモーションを協調して展開してきました。

CORFOの「インベスト・チレ」は2000年開始の投資促進プログラムで、各種の投資振興活動やインバクトの大きい投資誘致を通じてチリの経済成長力の強化を図りながら、生産や輸出基盤の多様化を目指しています。

インベスト・チレは、海外拠点との連携で国内外の投資家にサービスやインセンティブを提供することにより、投資案件の評価、導入、実現を容易にすると期待されています。すでにMcAfee、Oracle、

WorleyParsons、Jazzplatといった国際企業がチリでの事業展開を選択しています（<http://www.investchile.com>）。

一方、チリ外務省輸出振興局（ProChile）は、輸出企業向けに質の高い情報提供と、主要な国際展示会へのチリ企業出展支援、輸出促進にかかる特別プログラムの実施といったさまざまな支援業務を行っています（<http://www.prochile.cl>）。

最後に、海外投資委員会（FIC）は外国人投資家による対チリ投資の取引において、チリ側を代表する機関です。

FICの活動は外国投資関連の法規制に関する情報提供に加え、各種プロモーションの実施、外国人投資家や潜在的投資家のための関連情報の企画開発に焦点を当てています（<http://www.inversionextranjera.cl>）。

直接投資受入国として上位にランクイン

国連から最近発表された「2011年UNCTAD世界投資報告書」によると、チリは海外投資の受入国として初めて上位20カ国にランクインしました。2010年のチリの直接投資受入額は150億ドル超、前年比では17%増と、世界平均の5%増と比べて3倍以上です。また、これは全ラテンアメリカ、カリブ地域が記録した13%より高い数字となっています。

日本企業の対チリ直接投資

歴史的には、日本は1974年から2010年までの間に、累積で30億ドル相当をチリに投資しています（外資法（D.L.600）に則りチリ政府と投資家間で締結される契約ベース）。これは同期間にチリが世界から受け入れた海外直接投資総額の3.9%を占めています。対チリ主要投資国は上位から米国（25.9%）、スペイン（18.7%）、カナダ（17.7%）の順で、日本は第6位です。

現在、チリには三菱商事、三井物産、丸紅といった知名度の高い日本企業が投資しています。最近では住友商事と住友金属鉱山による12億ドルのチリ投資が決定しました。こうした実績は、両国間の良好なビジネス環境、さらに日本企業によるチリでのプロジェクト開発に対する信頼の証となっています。



サンティアゴ郊外マポチョ川沿いを走る高速道路
コスタネーラ・ノルテ (出所：ProChile)

日本からの投資のうち、84.2%は鉱業部門に向けられています。しかし現在チリには、たとえばエネルギー、インフラ、農業など他の部門においても、日本の企業にとって大きな魅力となり得るさまざまな投資機会があります。

お問い合わせは、チリ大使館商務部（TEL：03-3769-0551、E-mail：oficom@chile.or.jp）まで。

